学会(国際的)への貢献

- 国際対がん連合(UICC)　日本事務所
- 日本癌学会創設
- がん分子標的治療研究会
- 国際癌化学療法シンポジウム
- 骨軟部肉腫外科研究会

海外からの治療、研修、指導の要請

- 研修希望の医師、研究者受入れ146名の内、国外から25名(H24年4月～9月)
- 海外学会参加・交流(手術等指導要請含む)　177件(H24年4月～9月)

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

外国人患者受け入れの背景には、

VISIONがあり、歴史があり、環境があり、体制を作った

- VISION『がん診療・研究において世界に誇るがん研となる』
- がんの基礎研究と化学療法の研究所を併設 ー世界的な研究の発信している(してきた)歴史
- 東京臨海副都心　江東区有明に位置にある環境
  (羽田まで20分、成田まで60分)
- がん診療に特化、世界に誇る診療体制
- インターナショナルセンターを設置

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

インターナショナルセンターの紹介

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

概要：インターナショナルセンター（IC）

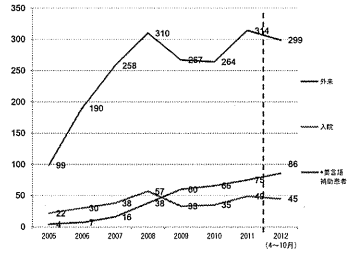
発足：2005年3月1日
人員体制：4名
訪日・在日外国実患者数約300名／年間
主な活動：海外医療機関や姉妹提携先関係業務
外国患者さんの診療補助(通訳・翻訳他)
外国患者さん受入体制整備
外国人研修医受入れ
外国人訪問者対応
会内国際化啓蒙活動:国際委員会主催
英会話講座推進
外国向け広報(英語版ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ)
その他海外事業企画

外国患者さんの受入れ状況

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

外国人患者さん来院動向

(2012年10月まで)



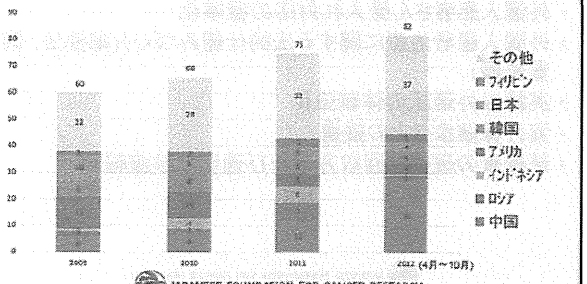
(人)

年度	外来	入院	*要言語補助患者	訪日
2005	99	22	4	0
2006	190	30	7	2
2007	258	38	16	2
2008	310	57	38	10
2009	267	33	60	24
2010	264	35	66	24
2011	314	49	75	24
2012 (4～10月)	299	45	86	22

*要言語補助患者：Intl.C(インターナショナルセンター)で対応する患者

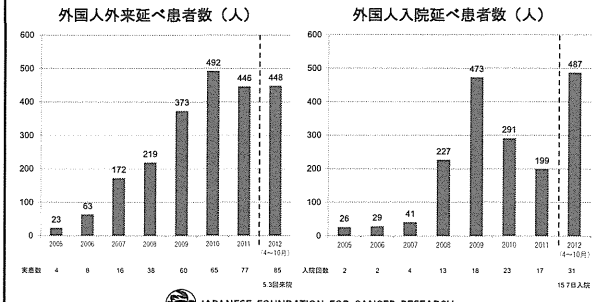
JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

Intl.C対応言語補助を要する外国人 国別実患数推移



JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

言語補助を要する外国人延患者数
(インターナショナルセンター対応：2012年10月まで)



JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

日本人患者さんとのバランスの考え方

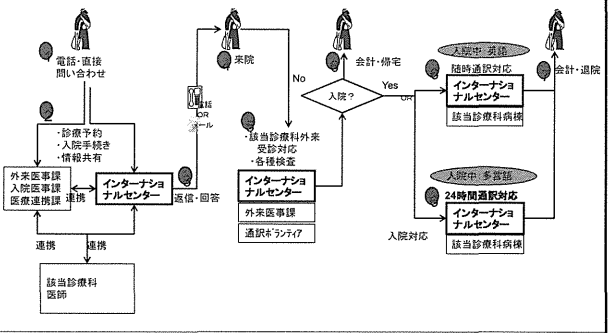
患者数としては、まだまだ小さい。
(現状)
○外国の外来延患者数VS日本人の外来延患者数：約500人VS約400,000人(0.12%)
○外国の入院延患者数VS日本人の入院延患者数：約500人VS約200,000人(0.25%)

(例えば．．．)
＊外国の入院延患者数約730人(実患者数約50人)を収容するために必要なベッド数：2床
＊当院の病棟稼働率：約88%＝616床/700床使用中、84床は常に空いている計算。

(従って、日本人患者さんへの影響は)
○外国人患者さんは、まだまだ相対的に非常に数が少なく、常に病床が空いている現状では、日本人患者さんへの影響は、非常に小さい。また、在院日数が短くなる傾向からその影響は増々小さくなる。

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

患者さんへの支援体制



JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

現在IC対応の在日外国患者さん

①イギリス(在日) 消化外	直腸がん	(6月28日手術) 勤務地は韓国。		
②イギリス(在日) 頭頸科	舌がん	術後1ケ月	経過観察来院(5/24手術)	
③イギリス(在日) 婦人科	子宮頸がん	来院		
④オランダ(在日) 乳腺科	乳がん	術後3ケ月	化学療法 (3/21 9当院手術)	
⑤アメリカ(在日) 血腫科	上咽頭がん	転移	化学療法中	
⑥フィリピン(在日)乳腺科	乳がん	術後1年	経過観察(2011.8 当院手術)	
⑦エジプト(在日) 乳腺科	乳がん	良性	経過観察中	
⑧日本(夫 スペイン) 呼吸内	肺がん	化療・放治療中(2010.2~入院治療 繰り返す)		

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH
© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

現在IC対応の訪日外国患者

①香港	健診セ	PET検査	健診	毎年	
②ポーランド	整形外	腫瘍精査	精査	経過観察来院	
③韓国	頭頸科	乳頭がん疑い	精査	毎年	
④中国	消外科	胃がん	術後8ケ月	経過観察来院	
⑤アメリカ	頭頸科	甲状腺がん	術後1年9ケ月	経過観察来院	
⑥中国	婦人科	卵管がん	セカンド		
⑦タイ	頭頸科	食道がん	術後プロボックス		
⑧アメリカ	消内科	胃異形成	精査	経過観察	1年半毎来院
⑨インドネシア	消外科	食道がん	術後経過観察		
⑩中国	呼内科	肺がん	セカンド		
⑪モンゴル	整外科	腫瘍	精査		
⑫中国	呼内科	肺がん	セカンド		
⑬韓国	頭頸科	甲状腺乳頭がん	セカンド		
⑭中国	消内科	膵臓がん肝転移	セカンド		
⑮ロシア	消外科	直腸がん	手術	入院中	
⑯中国	消外科	肝臓転移	セカンド	他院治療	
⑰中国	婦人科	卵巣がん術後	セカンド		
⑱アメリカ	救 急	腹痛	治療		
⑲中国	消外科	胃がん術後	セカンド		

国際化のPDCA

- 国際委員会：会の国際的ネットワーク拡大や国際ブランド化を果たし、国内外の患者さんへの医療提供力やがん研究の向上をめざすことを目的とし、がん研究会に寄せられるあらゆる機会を統合し、戦略的にがん研究会の国際化を進めている。
  メンバー：常務理事、病院長、研究所等、各部署から横断的に代表14名(理事4名、研究所から4名、医師2名、看護部長、事務3名)で構成
- 国際医療チーム：主に外国患者受入れの為の院内整備等を企画・推進。国際業務に直接携わりかつ、英語が堪能な医療従事者で構成。リエゾン的役割を果たし、各科横断的に活動し、外国患者さんとの医療上のコミュニケーションに寄与。
  メンバー：インターナショナルセンター長(消化器外科部長)を中心に病院全職種18名(医師5名、看護師4名、薬剤師1名、技師3名、事務5名)で構成

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

現状の課題

- 外国人患者さん受入れ対応の標準化
- 外国人患者治療に関する法的仕組みづくり(準拠法、同意書整備)
- 英語以外通訳の体制強化
- 海外保険会社との提携
- 医療費の確実な回収方法及び適切な診療報酬

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

今後の展望

- 歴史ある組織に国際的新規事業を行う体制が整備されてきている。
- インバウンド(患者受け入れ)だけではなく、アウトバウンド(日本が誇る医療サービスの輸出)による、認知度と信頼度向上を図る。
- 海外医療機関との姉妹提携や政府との国際ネットワークを形成していく。(患者受け入れだけではなく、学術・医療技術協力を行っていく)

近年益々高まってきている国内外からの要請に応え、
がん研の特長を生かし治療と研究の国際化に貢献し、ひいては、
国内患者さんと国の利益に資することを目的とする。

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

ご清聴ありがとうございました

JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

© 2012 JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

VISION

私たちは、
医療を通じて生命（いのち）を守ります
- 安心して受けられる医療
- 患者さんにやさしい医療
- 常に一歩先の医療
- 地域社会に貢献する医療

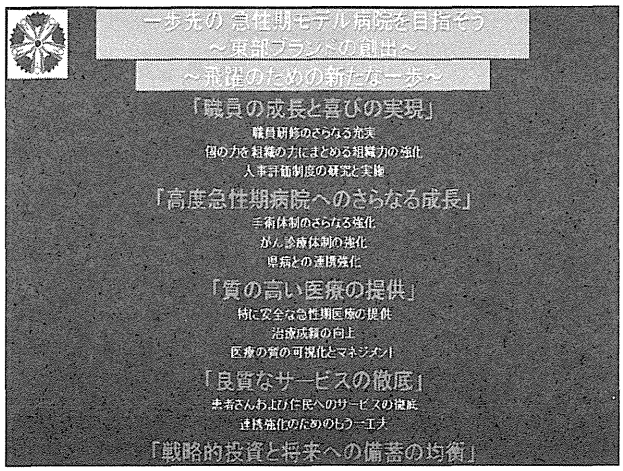
基本方針

- 医療の質の向上
  より質の高い医療、特に安全な医療
- 患者さんとご家族の満足度の向上
  患者さんに信頼される医療
- 患者さんが参加する医療の展開
  患者さんの権利の尊重
- 高度な急性期医療および専門医療の提供
  先進的な医療、福祉と連携した総合的な医療
- 地域から選ばれる病院作り
  地域住民、地域医療機関とのパートナーシップの構築
- 働きがいのある病院作り
  人材の育成、職員満足度の向上
- 安定した経営の確保
  病院として責任ある経営

当院のめざすところ

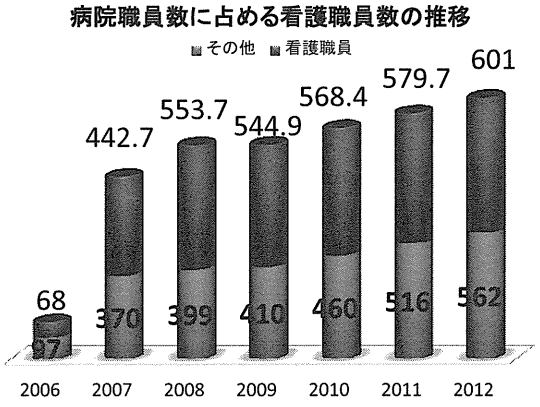
【目標】
- 全国の急性期病院が目標とする病院になる
- 地域住民にとって自慢となるような病院になる

【行動】
1. 高度急性期医療を行う
2. 政策医療である精神・重心を行う
3. 総合病院のメリットを活かし、多角的に診断し、他職種によるチーム医療を行う



救命救急センターと重心を併設した高度な急性期医療を担う地域支援病院

病院病床数	516床
重心定床数	44床
平均在院日数	9．7日
病床稼働率	95.6%
診療単価（入院）	80,388円
年間手術件数	5,177件
分娩数	1,253件



1. ロシアの患者さんを受入れたきっかけ

- 当院は平成19年3月に開院した

①開院時の院長とPJLの当時の社長に親交があった

②当院の環境がロシア人の希望にマッチした

- 羽田や東京に近い
- 高度専門医療の急性期病院（全科対応）
- アメニティーが充実

個室の充実 → 家族も宿泊できる

③当院のVISIONと付加価値

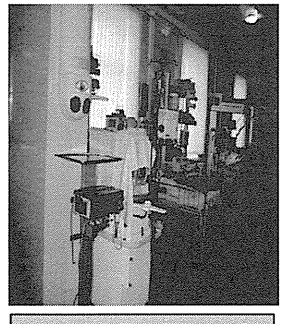
医療を通じて生命を守る

→地域の自慢になる病院を目指す（国際貢献）

④ロシアのサハリンを訪問

→ 何とか皆さんの日本の医療に対するご期待にお応えしたい

サハリンの公立病院

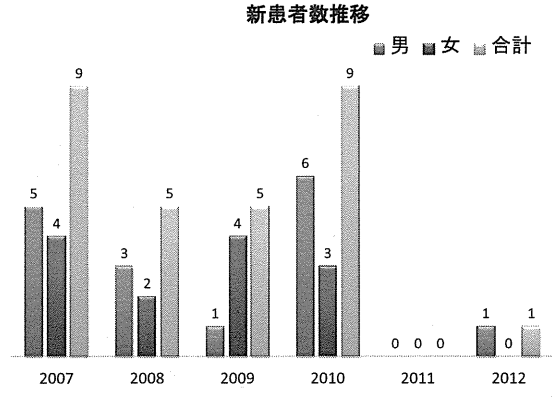


NICU

ナースステーションは廊下、机ひとつ

サハリン州の衛生局

サハリン州立病院との連携



2. 受入れのシステム

1. PJLの担当者と病院の担当者を決めた
2. PJLと病院は契約を結んだ
3. PJLから診療可能かどうかの問い合わせ

患者データをもとに、トリアージを行い、当院の医師にコンサルテーション

→診療可能であれば、

PJLに①現在の段階での治療方針

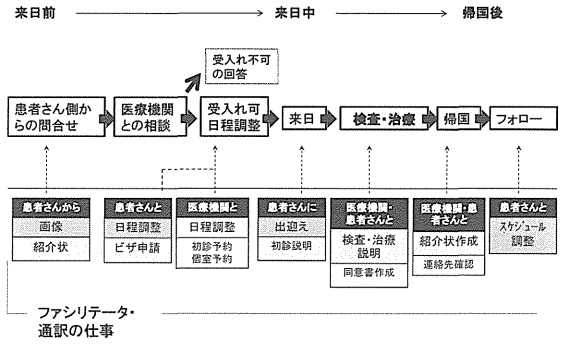
②診療行程　③診療費を示す

PJLから診療の依頼があれば、ベッド調整

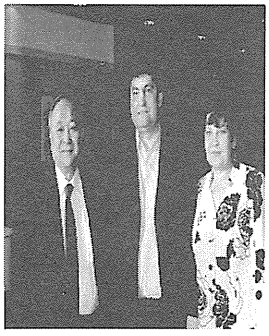
---

1. 患者さんが来日するということ

プロセス　医療機関との連携、患者さんとの連携



はじめてのロシア人患者さん

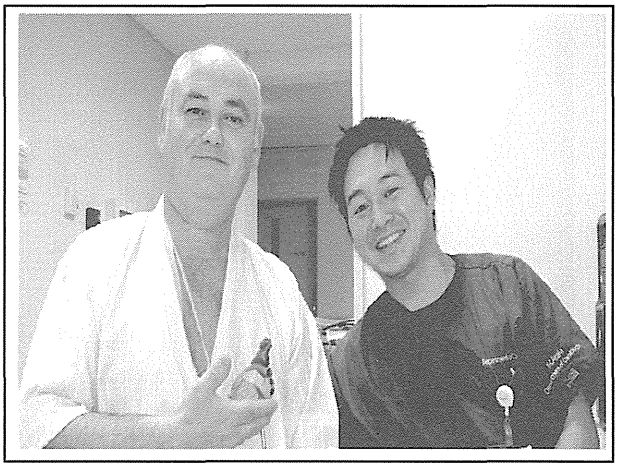


- 脳腫瘍

手術当日のICU
→携帯電話を使って説明

食事の工夫→パン
検査説明の配慮→ロシア語

はじめての受入れ
スタッフ
「元気になられてよかった！」



---

3. 外国人患者を受入れるために必要なこと

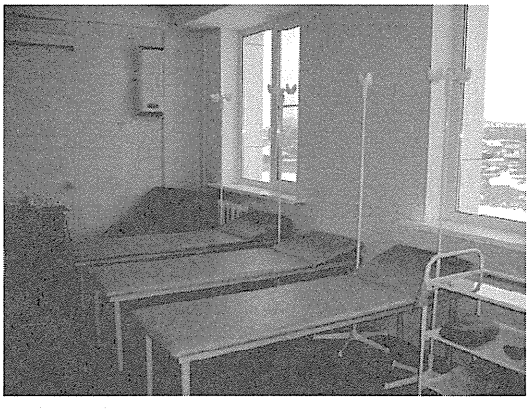
- 病院の不安
  言葉が通じるか
  満足していただけるか
  文化や風習が違う！

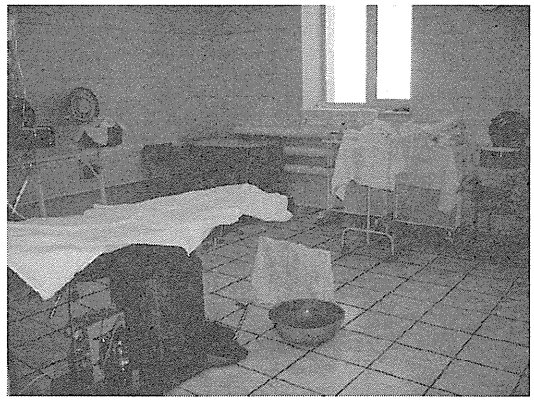
  料金の滞納はないか

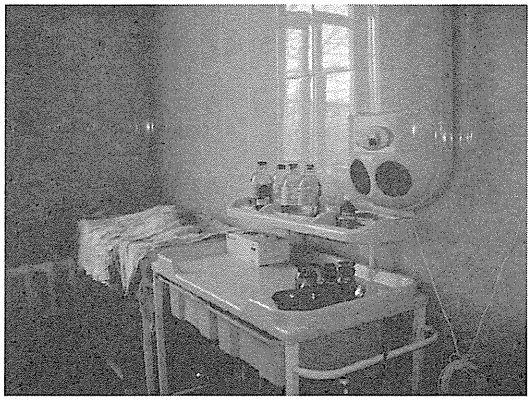
- 「よきパートナー会社」からのファシリテートが不可欠

通訳だけではなく、
患者からの信頼が厚い
医師との信頼関係が構築できるファシリテーターであること

＊深刻な病状も伝える→患者さんの気持ちに寄り添えることが重要







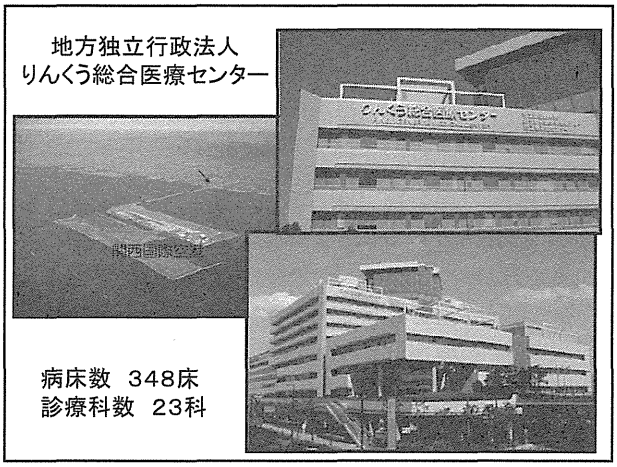
当院における医療通訳サービス

「医療のグローバル化と日本の医療機関」
シンポジウム　2012.12.02

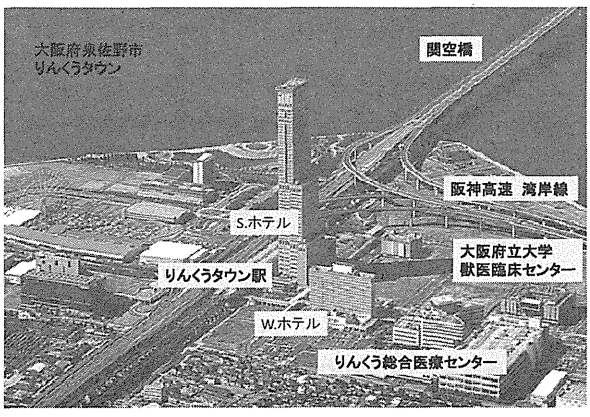
ペリトモレノ氷河、
パタゴニア, Argentina

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター
国際外来　　南谷 かおり

地方独立行政法人
りんくう総合医療センター



病床数　348床
診療科数　23科



通訳者不在時の外国人患者対応

- 身振り、手振り
- 中国人患者は筆談
- 多言語ツールの利用
- 患者の家族や知り合いが通訳
- 職員（航空会社、ホテル、雇用会社、etc）、留学生が通訳

上記に潜む危険性とは？

現場での外国人患者対応

- 身振り、手振りは・・・
  勘違いが多い
- 漢字による筆談は・・・
  意味が違う場合がある
- 多言語ツールの使用・・・
  外国語で答えられても解らない

家族、知り合い、会社の従業員、留学生が通訳

- 子供が学校を休んで親の通訳
- 身内の通訳の精神的負担は？
- 知り合いの通訳に守秘義務は？
- 医療用語を正確に理解し、忠実に訳せるのか？
- 通訳の中立性は保てるのか？

日本在住外国人患者の現状

- 病院に行かず、我慢して悪化
- 病気になるとクビ
- 自国の薬を自己判断で服用
- 健康保険に加入していないと100%自費
- 労働条件は悪く、重労働か単純作業
- 通訳は自分で手配し、有料
- 出産や手術は不安なので帰国
- 無料健診や救急車の呼び方を知らない

そこで・・・

2006年4月
りんくう総合医療センターに

国際外来開設

りんくう総合医療センター 国際外来の歩み

- 平成18年：英語医療通訳者7名と南谷で開始
  （英語、スペイン語、ポルトガル語）
- 平成19年：看護師（スペイン語）が参加
  元中国人医師が参加
- 平成20年：通訳者を病院HPで公募し採用
- 平成21年：講習会＋面接で通訳者を新規登録
  通訳コーディネーターを新規採用
- 平成24年10月：国際医療コーディネーター採用

りんくう総合医療センターの通訳者数

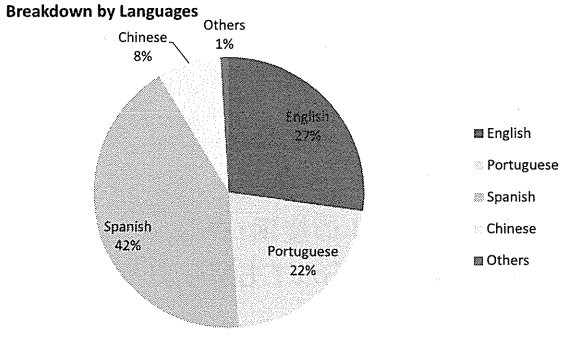
登録医療通訳者(2012年12月1日時点)			
言語	総数	医療通訳者	認定外国人サポーター
英語	28名	12名	16名
中国語	13名	7名	6名
スペイン語	15名	4名	11名
ポルトガル語	5名	1名	4名
合計	61名	24名	37名

＋国際外来秘書1名（スペイン語）
＋国際医療コーディネーター2名（英語、中国語、フィリピン語）

医療通訳配置

- 現時点での医療通訳常駐日（シフト制）：
  英語 --------- 月～木曜
  スペイン語 --- 火・木曜
  ポルトガル語-- 火・木曜
  中国語 ------ 火曜
  } 10時～15時
- 同言語の医療通訳者とサポーター、1名ずつをペアで配置
- 上記以外で予約がある場合は、内容により通訳配置を考慮

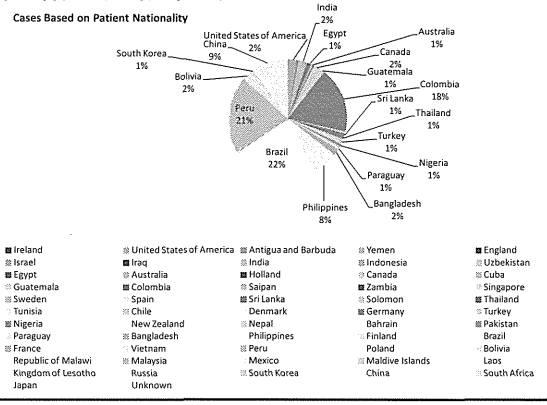
言語別通訳件数



設立当初から今日までの医療通訳件数

通訳件数実績	
2006年度	88件
2007年度	232件
2008年度	428件
2009年度	565件
2010年度	711件
2011年度	731件
合　計	2755件

国籍別通訳件数



当院で医療通訳した患者の国籍分布図

外国人患者の障壁

言葉の壁
文化の壁
制度の壁

トルコ人の通訳ケース

- 50代男性　来日し空港で倒れ当院に救急搬送。診断は脳内出血。
- 英語は日常会話程度。領事館からトルコの家族へ連絡するも、誰も来日できず。
- 病棟ではトルコ食を要求し、頻繁にナースコールを鳴らす。
- 医療スタッフが疲弊し、当院の通訳兼看護師が付き添い、トルコに帰した。

本人のクレジットカードは使えず、治療費は未収。

ブラジル人の通訳ケース

- 10代の妊婦。妊娠初期で近医を受診するも日本語が分からず、車で2時間かけて当院に通院。
- 陣痛が始まりすぐに来院するが、まだ早いと一旦帰宅。数日後に破水し、入院して無事に女児を出産。

家族が病室（相部屋）で騒ぐ、夫が同じベッドで眠る、夜中にTVを観る等のトラブルがあった。